

17. 『一般検査支援体制 その 』

～携帯電話機能を活用した支援体制～

東邦大学医療センター佐倉病院 MCM 検査室

安藤 正

【はじめに】日常検査あるいは日・当直帯において、尿沈渣、体腔穿刺液検査で不明な所見や細胞に遭遇した場合、アトラス等を参照したり、一般担当者に連絡をしているのが現状だと思うが、同じ所見や細胞が掲載されていない、時間帯によっては担当者への連絡を躊躇するなど問題もある。担当医に連絡する事もあると思うが、一般検査の知識を必ずしも持ち合わせているとは限らない。不安なまま検査を実施し、報告しているのが現状だと思う。【目的・方法】不明な所見、細胞に遭遇した場合、できるだけ迅速に報告できる様にする事、解らない時にいつでも教えて貰えるという安心感を与える事を目的とし、以前より携帯電話機能を活かし、顕微鏡写真を撮影し、メールで送って貰いアドバイスを返す支援体制を試みている。今までの経緯、現状、他の利用方法、撮影方法などを実際撮影した写真と共に報告する。【結果】当院スタッフ以外にも他の施設の技師とメルアドの交換をし、深夜でも極力対応している。必ずしも良い写真でなくても、細胞の一部が撮影出来ていれば鑑別の手掛かりになり、アドバイスができる。また、レベルアップを目的とし、私が撮影した写真で携帯フォトサーベイを不定期に実施し、解答に解説を付けて返信している。現在、約30人が登録している。【考察及びまとめ】日・当直帯に、一般検査に不慣れな技師が鏡検する事は不安だと思うが、時に結果が診断や治療方針を決める場合もあるので、誤った報告は絶対にしてはならない。今後も継続し、一般検査の精度・信頼性の向上、担当する技師の不安解消に寄与して行きたい。尚、撮影は写真のみで、患者情報は一切外部には伝わらない様、細心の注意を払っている事を付記しておく。

連絡先 0439-463-0361

18. 『一般検査支援体制 その 』

～尿沈渣フロー図による鑑別～

東邦大学医療センター佐倉病院 MCM 検査室

安藤 正

【はじめに】先に携帯電話機能を活用した一般検査支援体制の報告をした。しかし、これは携帯電話で顕微鏡写真を撮影すると言う大前提があり、撮影出来ないと何も出来ない。撮影は慣れれば案外簡単であるが、なかなか良い写真が撮れない様である。あまり状態の悪い写真では、見る側も困ってしまう。

【目的】写真撮影の苦手な技師向けに、尿沈渣細胞鑑別のフロー図を作成した。内容が簡潔なので新人教育のツールとしても活用している。その概要を報告する。

【方法】内容は、上皮系細胞の鑑別を主として、細胞の大きさ、色調、辺縁構造、核構造から鑑別できる様、シンプルな物にした。まずはディスカッション顕微鏡で、尿沈渣の基本を繰り返し観察し、その後、フロー図と顕微鏡を見合わせながら、分類基準の確認をする。徐々に慣れて来ると、不明な細胞に遭遇しても、フロー図に沿って分類が可能になって来る。

【結果】フロー図を作成してから半年、二人の新人技師が当直デビューを果たしている。尿沈渣フロー図を頼りに、検査を実施していて、テキストを開いて似た細胞を探すよりも早く、細胞鑑別の手掛かりとなっている様である。

【考察およびまとめ】ありそうで無かったフロー図を作成した。分類基準にかなり主観が入ってはいるが、誤りでは無いと自負している。不明な細胞や解らない細胞はいくら考えても解らない。テキストで探しても、同じ写真があるとは限らない。このフロー図を利用し、スムーズに鑑別が出来る様になれば、迅速な結果報告に繋がり、技師の不安解消にも役立つと思う。今後は、写真を掲載する等充実を図って行きたいと思う。また、髄液・穿刺液版も作成しようと考えている。

連絡先 0439-463-0361